

Accuphase

STEREO CONTROL CENTER

ステレオ・コントロール・センター

C-2120

取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
 最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

5年間の品質保証と保証書

C-2120の品質保証は5年間です。付属の「お客様カード（保証書発行はがき）」に必要事項を記入の上、必ず（なるべく10日以内に）ご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

- *「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは27ページをご参照ください。
- *「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、届きました保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.



マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品をご確認ください

- 取扱説明書(本書)…………… 1冊
- 安全上のご注意…………… 1冊
- お客様情報の取扱いについて…………… 1枚
- お客様カード(保証書発行はがき)…………… 1枚
- 目隠しシール…………… 1枚
- AC電源コード(2m)…………… 1本
- プラグ付きオーディオケーブル(1m)(AL-10) …… 1組
- 単3乾電池…………… 2個
- リモート・コマンダー RC-220…………… 1個

目 次

付属品をご確認ください	表紙裏頁
1. 安全上必ずお守りください	2, 3
⚠警告	2
⚠注意、お手入れ、AAVA方式とは	3
2. 各部の名前	4, 5
フロントパネル、リアパネル	4
機能ディスプレイ部	5
3. 各部の動作説明	6～13
4. 接続図	14
5. リモート・コントロール	15
使用法/電池について	15
6. ご使用方法	16～19
CDプレーヤーの演奏	16
チューナーで放送を聴く場合	16
別系統のプリアンプやAVアンプでの演奏	17
レベル/周波数ディスプレイ部の《表示モード》変更	18
レコーダーで録音・再生をする場合	
接続	19
機能(レコーダースイッチ)	19
操作(再生、録音、電源OFF時のチューナー録音)	19
7. オプション・ボード	20～23
オプション・ボードの使用方法	
CDなどをデジタル入力で演奏	20
アナログ・ディスク(AD)の演奏	21, 22
オプション・ボードの種類	
ライン入力ボード LINE-10	22
アナログ・ディスク入力ボード AD-30	22
デジタル入力ボード DAC-40	22
オプション・ボードの取り付け方法	23
8. オーディオ・ケーブル(オプション)	23
9. 保証特性	24
10. ブロック・ダイアグラム	25
11. 故障かな?と思われるときは	26
12. アフターサービスについて	27

安全上必ず
お守りください

各部の名前

各部の
動作説明接
続
図リモート・
コントロール

ご使用方法

オプション・
ボードオーディオ・
ケーブル

保証特性

ブロック・
ダイアグラム故障かな?と
思われるときはアフターサービス
について

1. 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。



■ 電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■ 電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。
- めれた手で電源プラグを絶対に触らない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしない。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部に連絡ください。

■ 放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■ 機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

■ 火災又は感電を防止するために、雨がかかる場所又は湿気の多い場所では絶対使用しない。

■ トップ・プレート(天板)やボトム・プレート(底板)は絶対にはずさない。

- 内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■ 密閉されたラック等には絶対に設置しない。

- 通風が悪いと機器の温度が上り、火災や故障の原因となります。

ラック等に設置する場合は、周囲の隙間を十分確保する。

上下の通気孔をふさいだり、周囲の通風を妨げると故障の原因となります。

特にラック等に設置する場合は、右の図を参照して、製品左右や上面の隙間を十分確保し、周囲の通風を妨げないようにして、前・後面を密閉したラックは使用しないでください。

■ 脚の交換は危険ですから行わない。

- 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

■ 次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部に連絡ください。

- 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損した場合。

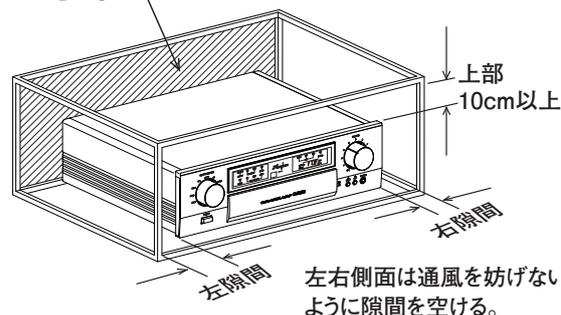
*上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

*万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

■ 入・出力端子や、AC電源コネクタ、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

前面や後面(斜線部分)
はふさがらない



左右側面は通風を妨げない
ように隙間を空ける。

注意

■ 設置場所について

次のような場所への設置はさけてください。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たるところ
- 暖房器具の近く
- 極端に温度の低い場所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

■ パワーアンプなど他の機器と直接重ねて使用しない。

■ 長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

■ 電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

■ ヘッドフォンを使用するときは、スピーカーやヘッドフォンから急に大音量が出ないように必ず本機のボリュームを下げる。

■ 入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬グラウンド側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

■ バランス用とライン(アンバランス)用ケーブルは同時に接続して使用しない。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

■ オプション・ボードの増設。

- オプション・ボードを抜き差しする場合は、必ず電源を切る。
- オプション・ボード(DAC-40等)での演奏中に、光ファイバー、同軸デジタル・ケーブル、USBケーブルを外すとノイズの原因となる場合があります。
- 増設したオプションボードでレコードプレーヤーなどを操作するときは、必ず本機のボリュームを下げる。特に、カートリッジを上げたり、下げたりするときは、ボリュームを下げないとスピーカーを破損する原因となります。

■ レコードプレーヤーなどを操作するときは、必ず本機のボリュームを下げる。

特に、カートリッジを上げたり、下げたりするときは、ボリュームを下げないとスピーカーを破損する原因となります。

お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。
- フロントパネル面のガラス側面はコーティングされており、白い布で拭くと黒っぽく着色することがありますのでご注意ください。

AAVA方式とは

C-2120は、AAVA(Accuphase Analog Vari-gain Amplifier)方式のボリューム・コントロールを搭載しています。AAVAは、従来の抵抗体による音量調整とは全く異なり、16段階に重み付けされた音楽信号を電流スイッチ回路で切り替え、それによって音楽信号の大きさを変える、画期的なボリューム・コントロール方式です。

実際の動作は従来ボリュームを利用し、それを回して調整位置を検出、電流スイッチのON/OFFによって増幅度(ゲイン)を決定します。AAVAは、入力から出力までのゲインをボリューム・ノブによって正確に変化させることができ、その数値(dB)をレベル/周波数ディスプレイ部に表示することができます。(18ページ参照)

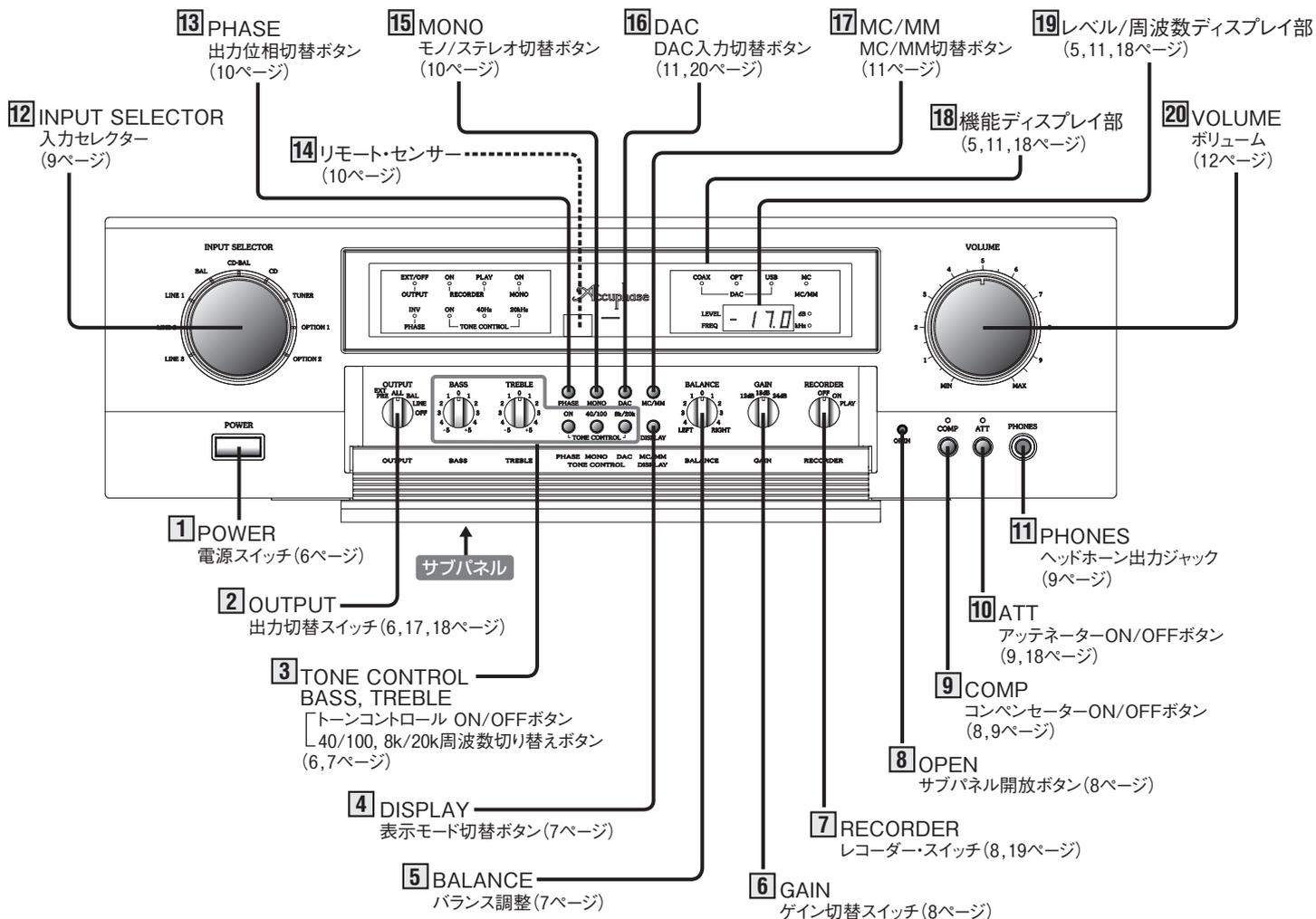
注意

高能率スピーカーをご使用の場合、ボリュームを回転するときやバランス調整を行うときに、『電流スイッチの切替動作音』が聞こえる場合があります。この動作音は異常ではありません。

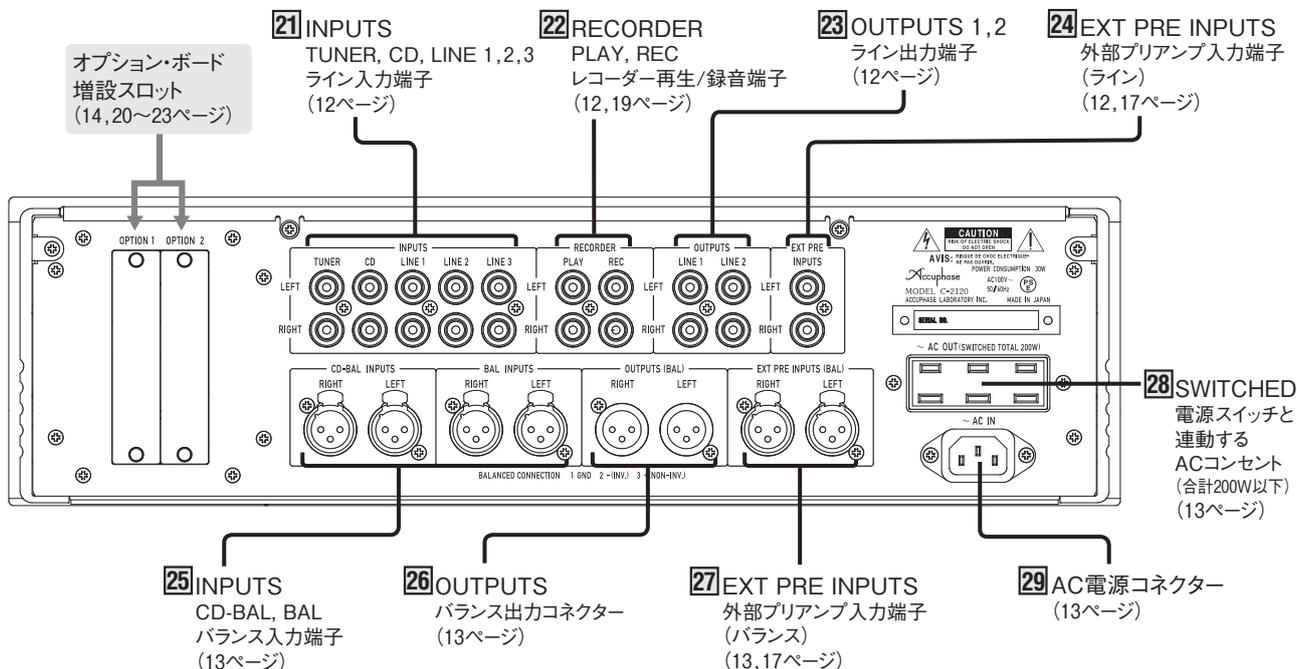
2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)

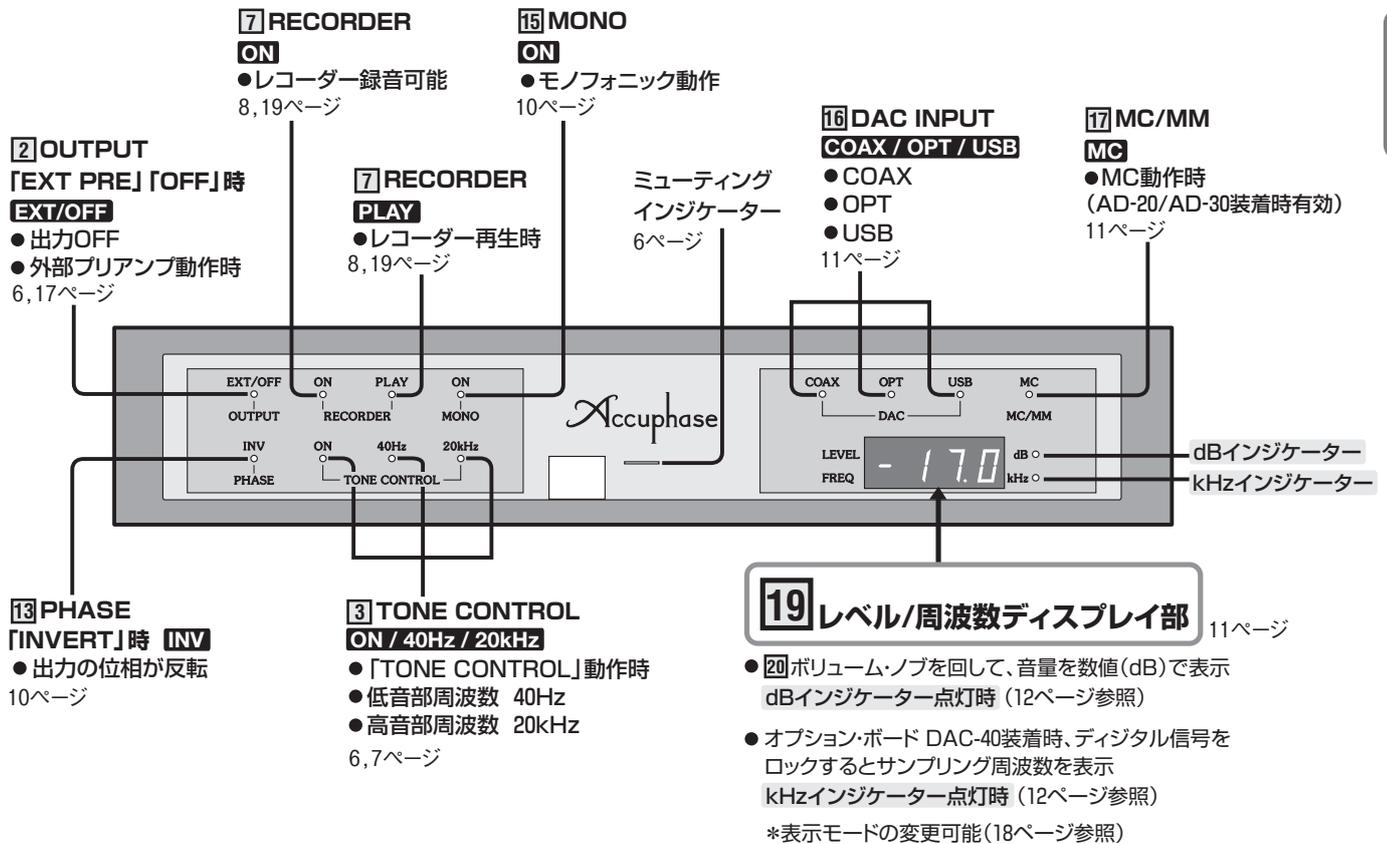


リアパネル(後面)



18 機能ディスプレイ部

*イラストは説明用ですので、文字等は実際の表示と異なります。

機能ディスプレイ部は各スイッチやボタンで選択した動作状態を、**LEDの点灯**により表示します。

19 レベル/周波数ディスプレイ部は、4 DISPLAY表示モード切替ボタンで「表示のON/OFF」が可能です。(7ページ)

DISPLAYボタン：ON(点灯)時

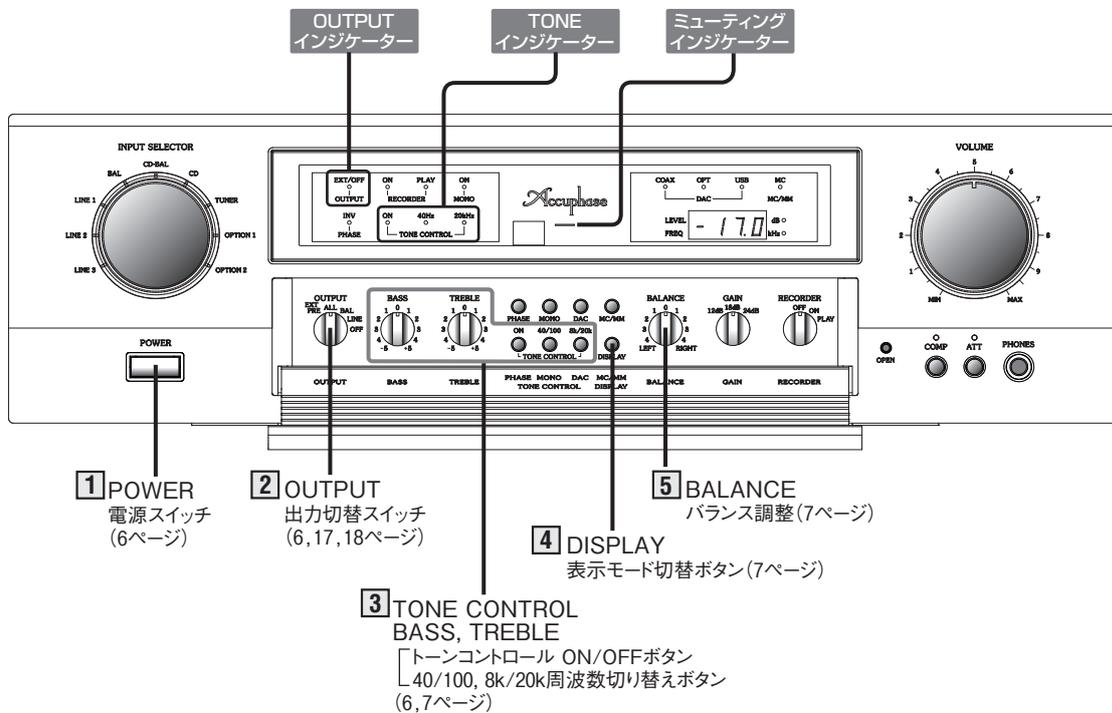
20 ボリューム位置による、音量を数値(dB)で表示します。ゲインモード、アッテネーター・モードにより表示が変わります。(18ページ参照)

DISPLAYボタン：OFF(消灯)時

19 レベル/周波数ディスプレイ部は消灯していますが、ボリュームを変更した場合、また、ゲインモード時は10 ATT ON/OFFや6 ゲインを切替えると、その動作状態を4秒間表示後、再び消灯します。(7, 11ページ参照)

3. 各部の動作説明

フロントパネル(前面)



1 POWER — 電源スイッチ

押しと電源が入り、再び押しと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約3秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。ミュートが解除されるとミュートインジケータが点灯し動作可能になります。

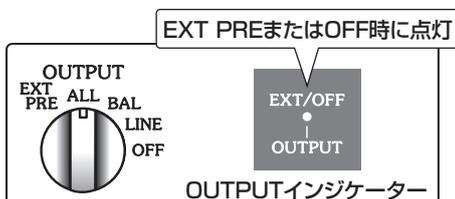
- ※ 電源スイッチをOFFにすると、OUTPUTスイッチを「EXT PRE」ポジションにしたときと同様に、接続した外部プリアンプの出力を選択します。
- ※ 電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

- EXT PRE** : 接続した外部プリアンプの出力に切り替わります。(17ページ参照)
- ALL** : 全てのOUTPUTS端子から出力されます。
- BAL** : バランスOUTPUTS端子を選択します。
- LINE** : ラインOUTPUTS端子(ピンジャック)を選択します。
- OFF** : BAL、LINE 3系統の出力信号が全て切れます。

- 通常は“ALL”のポジションでご使用ください。
- “EXT PRE”と“OFF”ポジションのときは機能ディスプレイ部の“EXT/OFF”のLEDが点灯します。
- ヘッドフォン出力は出力切替スイッチに関係なく出力されます。

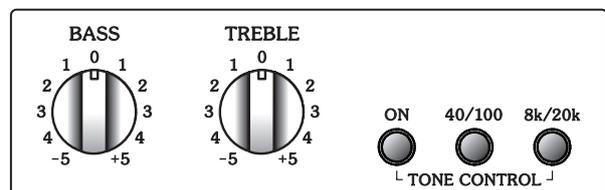
2 OUTPUT — 出力切替スイッチ

BAL、LINE合計3系統の出力端子とEXT PRE端子を切り替えるスイッチです。



3 TONE ON/OFF, BASS, TREBLE — トーンコントロール

TONEボタンを押してON(LED点灯)にすると、BASS(低音)/TREBLE(高音)のコントロールが有効になります。



TONEコントロールON/OFFボタン

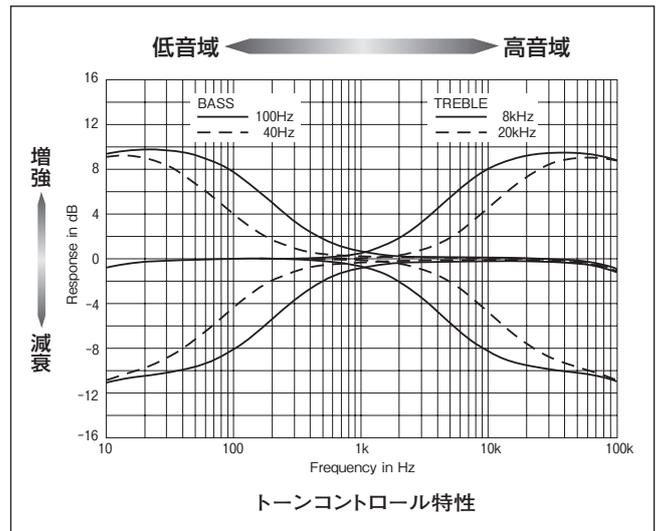
- 押して“ON” : 「ON」 LED点灯
- 再び押すと“OFF” : 「ON」 LED消灯

LED点灯/消灯



TONEインジケータ

- “ON”でBASS(低音)/TREBLE(高音)コントロールが有効です。
- “OFF”の場合BASS/TREBLEツマミの位置に関係なく、フラットな特性が得られます。



各部の
動作説明

「TONE CONTROL」ON時有効な機能

BASS — 低音コントロール

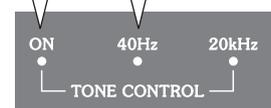
■ 40/100 : 低音部周波数切替ボタン(通常100Hz)

- 押して“40Hz” : 「40Hz」LED点灯
- 再び押すと“100Hz” : 「40Hz」LED消灯

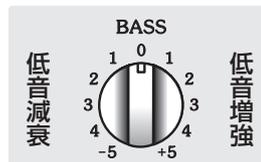
■ 低音部(40Hzまたは100Hz)の周波数特性を連続可変でコントロールします。

- センターから左に回して低音減衰: 0~-8dB
- センターから右に回して低音増強: 0~+8dB

LED点灯 LED点灯/消灯



TONEインジケータ



TREBLE — 高音コントロール

■ 8k/20k : 高音部周波数切替ボタン(通常8kHz)

TREBLE(高音コントロール)の周波数を切り替えます。

- 押して“20kHz” : 「20kHz」LED点灯
- 再び押すと“8kHz” : 「20kHz」LED消灯

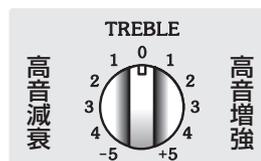
■ 高音部(8kHzまたは20kHz)の周波数特性を連続可変でコントロールします。

- センターから左に回して高音減衰: 0~-8dB
- センターから右に回して高音増強: 0~+8dB

LED点灯 LED点灯/消灯



TONEインジケータ



4 DISPLAY — 表示モード切替ボタン

19 レベル/周波数ディスプレイ部を切替えます。



*電源を切っても表示する項目は記憶しています。

ボタンを押すごとに表示を切替えます。



*1. デジタル入力 オプション・ボードDAC-40装着時に表示します。

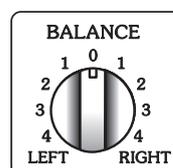
メモ

19 レベル/周波数ディスプレイ部OFFの場合、数値は消灯しませんが下記の場合、4秒間それぞれの数値を表示後、再び消灯します。

- ボリューム、ATT(ゲインモードのみ)を操作した場合。
- OPTIONスロット選択時、DAC-40がデジタル入力をロックしたとき。

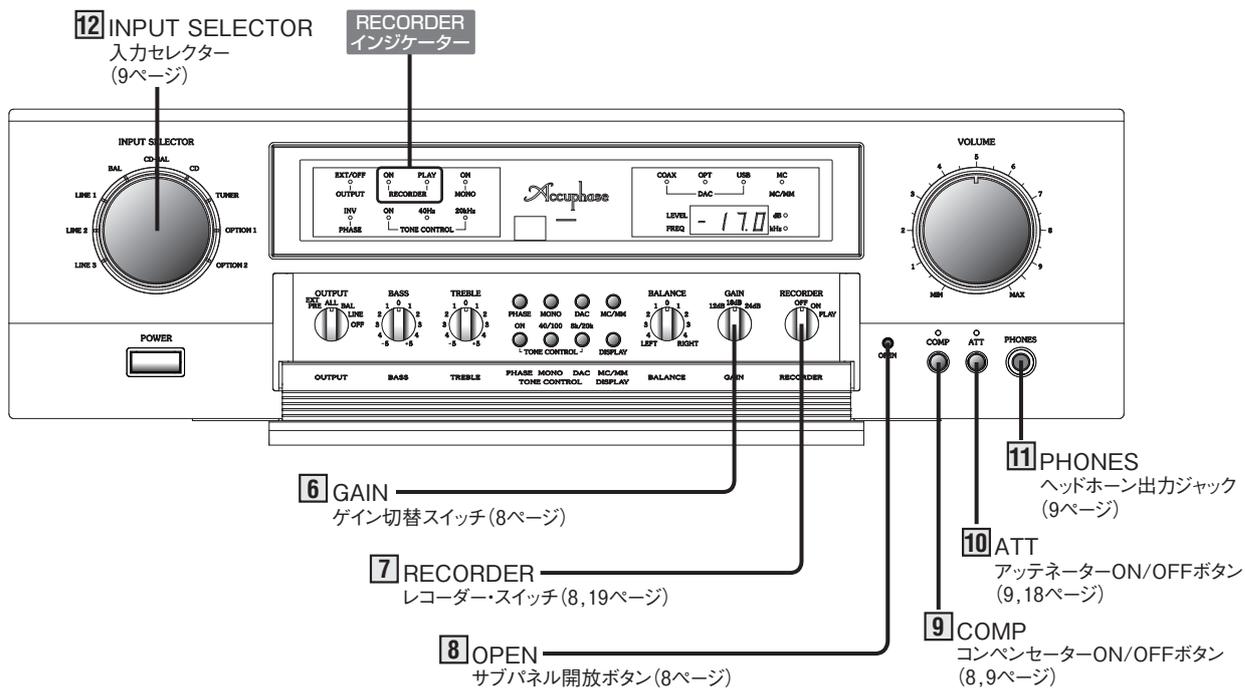
5 BALANCE — バランス調整

左右の音量バランスを調整することができます。



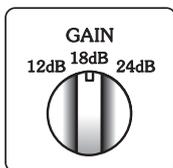
- 通常はセンター(0)で使用します。

フロントパネル(前面)



6 GAIN — ゲイン切替スイッチ

ラインアンプの増幅度を12dB、18dB、24dBの中から選択します。



最適な増幅度(ゲイン)を選択し、入力ソースやパワーアンプのゲイン、スピーカーの能率などを含めた総合的な釣り合いを整えてボリュームの使用位置などを使いやすくします。

● 通常は18dBで使用します。

11ページ **19** 参照。

ON

レコーダーを使用して録音する場合のポジションです。

入力セレクトターで選択されたプログラムソースを演奏すると同時に、レコーダー録音用“REC”端子に信号が出力され、録音が可能になります。

PLAY

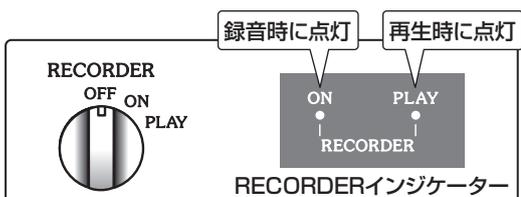
レコーダー出力を再生する場合のポジションです。

入力セレクトターで選択されたプログラムソース信号がレコーダー録音用“REC”端子に出力され録音も可能です。

7 RECORDER — レコーダー・スイッチ

22レコーダー端子に接続したレコーダーで録音をする場合に使用します。(詳細は19ページ参照)

入力セレクトターで選んだ信号がレコーダー録音用“REC”端子に出力され、レコーダーで録音可能になります。



OFF

通常(録音しない場合)はこのポジションにします。

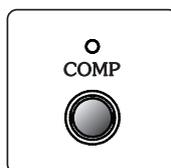
入力セレクトターで選択するプログラムソースを演奏しますが、レコーダー録音“REC”端子に信号は出力されません。

8 OPEN — サブパネル開放ボタン

押すとサブパネルが開きます。閉める時はサブパネルを直接手で閉めてください。

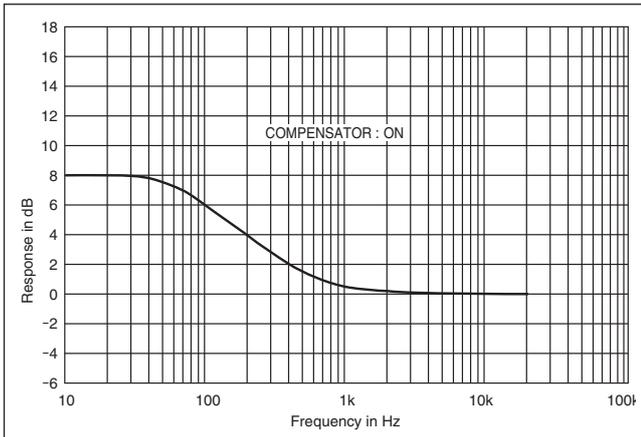
注意 直接サブパネルを手でこじあけないでください。開閉メカが壊れる恐れがあります。

9 COMP — コンペンセーター(聴感補正) ON/OFFボタン



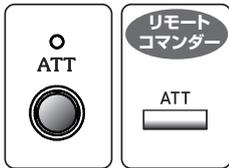
COMPボタンは、小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスを調整する機能です。人間の聴感特性は音量が小さくなるにつれて特に低音が不足して聴こえます。低音不足を補うために大変有効です。

- 押して“ON” : 「COMP」 LED点灯
- 再び押すと“OFF” : 「COMP」 LED消灯



コンペンセーター特性

10 ATT — アッテネーターON/OFFボタン



本機の出カレベルを標準状態から瞬時に音量を下げるができます。減衰量は20dB(1/10)です。

- 押して“ON” : 「ATT」LED点灯
- 再び押すと“OFF” : 「ATT」LED消灯

レベル/周波数ディスプレイ部が《ゲイン・モード》時 (18ページ参照)

アッテネーターON時、19レベル/周波数ディスプレイ部の表示は、現在のレベルに-20dB加算された値に変わります。OFF時は、元のレベル値に戻ります。

メモ

レベル/周波数ディスプレイ部を数字表示OFFにした場合、ATTボタンを切り替えると、4秒間同様に文字表示後、再び消灯します。

11 PHONES — ヘッドフォン出力ジャック

ヘッドフォンで演奏を楽しむ場合、ヘッドフォン・プラグをこのジャックに差し込んでください。

- ヘッドフォンのレベルは本機のボリュームでコントロールしてください。
- インピーダンス8Ω以上のヘッドフォンをご使用ください。ただし、インピーダンスが高い、または能率の低いヘッドフォンを使用すると音量が小さく感じられる場合があります。
- 2 OUTPUTスイッチで“EXT PRE”を選択した場合でも、本機でインプット・セレクターやレコーダー・スイッチで選択された信号がヘッドフォンから出力されます。

注意

ヘッドフォンで演奏中、OUTPUTスイッチをOFF以外にするとスピーカーから音が出ます。急に大きな音が出ないように、音量に注意してください。

12 INPUT SELECTOR — 入力セレクター

リアパネルの各入力端子に対応するポジションのプログラム・ソースを選択します。

リアパネルの各入力端子を選択し、LEDの点灯で表示します。リモート・コマンダーRC-220でも同様に切り替えることができます。

TUNER, CD, LINE 1 ~ LINE 3

リアパネルの各入力端子へ接続したライン入力機器を選択します。

CD-BAL, BAL

リアパネルの入力端子へ、バランス用オーディオ・ケーブルで入力した機器を選択します。

OPTION 1, OPTION 2

リアパネルのオプション・スロットに増設した入力端子を選択します。

DAC-40を使用して、デジタル入力がアンロックの場合入力インジケータが点滅します。

- DAC-40, AD-20/AD-30の機能の切替えは11ページ参照
- オプション・ボードは20~23ページ参照

※「INPUT SELECTOR」ノブは指標がなく、エンドレス(ストップのない)のロータリースイッチを使用しています。

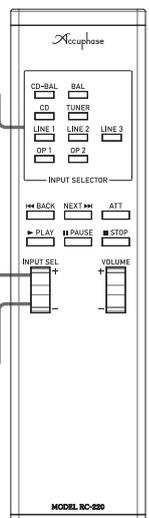
INPUT SELECTOR 入力セレクター

「INPUT SELECTOR」(入力セレクター)は、リアパネルの各入力端子に対応するプログラム・ソースを選択します。各ボタンを押すと、「INPUT SELECTOR」ノブの外周に、選択された入力ポジションのLEDが点灯します。

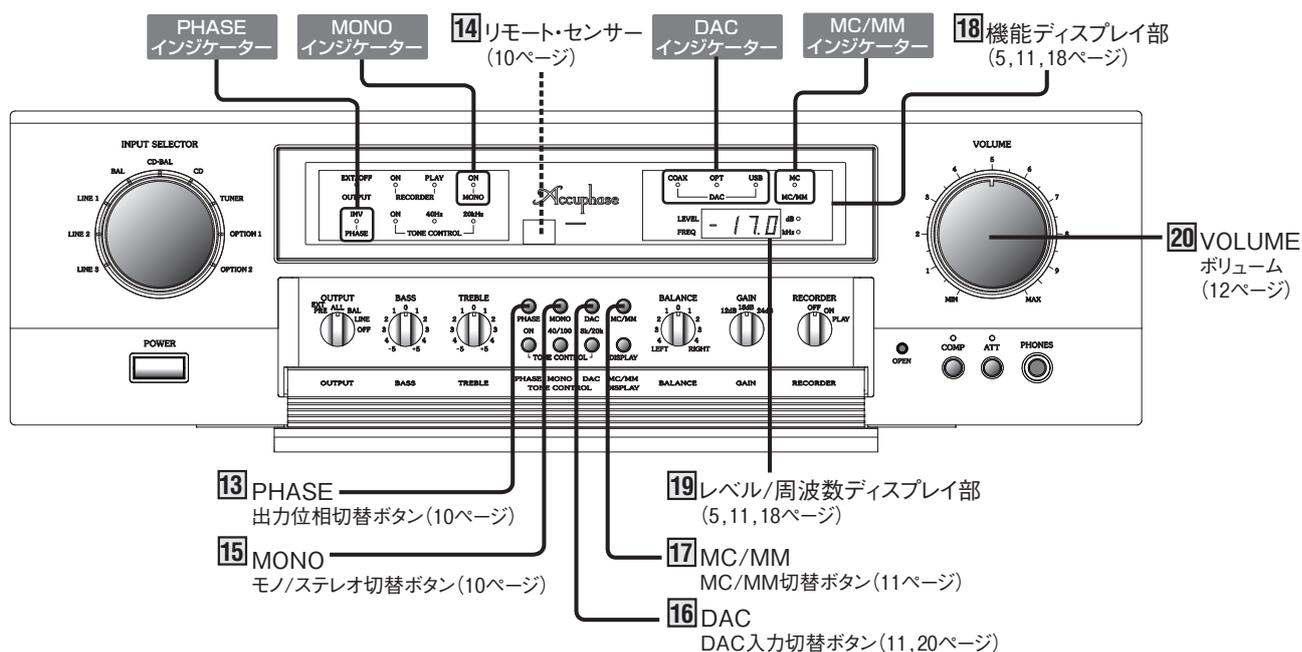
INPUT SEL

+
12 入力セレクター・ノブの右回りと同じで入力ポジションを選択。

-
12 入力セレクター・ノブの左回りと同じで入力ポジションを選択。



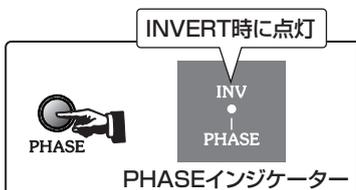
フロントパネル(前面)



13 PHASE — 出力位相切替ボタン

絶対位相を切り替えます。

通常、出力信号は入力信号と同相ですが、このボタンを押すと出力の位相が反転(180°)して、出力信号は入力信号と逆相になります。



- 押して“INVERT”(逆相)
ディスプレイ部のPHASE : 「INV」LED点灯
- 再び押すと同相 : 「INV」LED消灯

INVERT(逆相)時: バランス出力コネクター2番と3番の極性は、次のように変わります。入力や出力機器の極性と合わせて設定してください。

- ①: グラウンド
- ②: インバート(-) ⇨ ノン・インバート(+)
- ③: ノン・インバート(+) ⇨ インバート(-)

メモ

入力セクター、レコーダーなど全ての入力に対して、それぞれ位相設定が可能です。その設定は入力毎に記憶(LEDの点灯/消灯で確認)することができます。

ソース側機器(CDプレーヤーなど)と出力側機器(パワーアンプなど)との様々な極性の組み合わせに対しては次の表を目安にしてください。

位相は合わせなくても再生可能です。

ソース側機器(極性)	出力側機器(極性)	本機のPHASE設定
バランスコネクター3番(+)	バランスコネクター3番(+)	同相(INV LED 消灯)
バランスコネクター3番(+)	バランスコネクター2番(+)	逆相(INV LED 点灯)
バランスコネクター2番(+)	バランスコネクター3番(+)	逆相(INV LED 点灯)
バランスコネクター2番(+)	バランスコネクター2番(+)	同相(INV LED 消灯)
ライン(アンバランス)(RCA)	バランスコネクター3番(+)	同相(INV LED 消灯)
ライン(アンバランス)(RCA)	バランスコネクター2番(+)	逆相(INV LED 点灯)
バランスコネクター3番(+)	ライン(アンバランス)(RCA)	同相(INV LED 消灯)
バランスコネクター2番(+)	ライン(アンバランス)(RCA)	逆相(INV LED 点灯)
ライン(アンバランス)(RCA)	ライン(アンバランス)(RCA)	同相(INV LED 消灯)

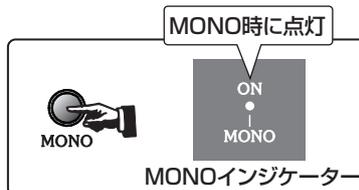
14 リモート・センサー

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-220の赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーを使用するときは、発光部をここに向けてください。(15ページ参照)

15 MONO — モノ/ステレオ切替ボタン

ステレオとモノフォニックを切り替えます。

モノフォニックでは、左右チャンネルの信号がミックスされ、スピーカーの中央で聴くと音像はセンターに定位します。



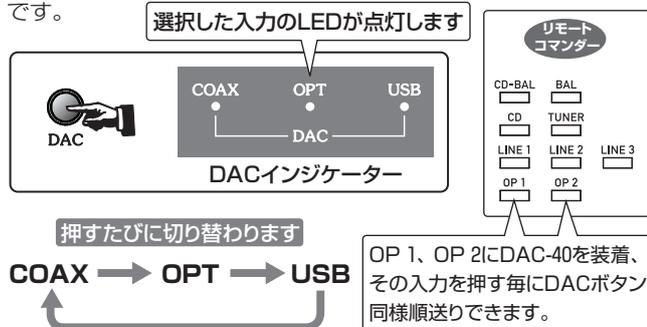
- 押して“MONO”(モノフォニック) : 「MONO」LED点灯
- 再び押すとステレオ再生 : 「MONO」LED消灯

16 DAC — DAC入力切替ボタン

この機能は、「デジタル入力ボード DAC-40」が増設されているときのみ有効です。

*DAC-40の詳細は20, 22ページ参照。

オプション・ボード増設スロット1, 2にDAC-40を増設し、**12**入力セレクトターで選択しているとき、DAC-40の入力を切替えるボタンです。

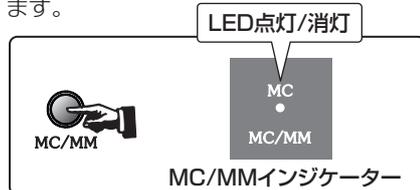


17 MC/MM — MC/MM切替ボタン

この機能は、「アナログ・ディスク入力ボード AD-20/AD-30」が増設されているときのみ有効です。

*AD-30の詳細は21, 22ページ参照。

AD-20/AD-30でイコライザー・アンプ(アナログ・ディスクを再生するときに必要なアンプ回路)のゲイン(MC/MM)を切り替えます。



- 押して“MC” : 「MC」LED点灯
- 再び押すと“MM” : 「MC」LED消灯

MC

出力電圧が低いMC(ムービング・コイル)型カートリッジを使用する場合のポジション。入力インピーダンスはボード上にあるディップ・スイッチで設定してください。

MM

出力電圧が高いMM(ムービング・マグネット)型カートリッジを使用する場合のポジション。入力インピーダンスは47kΩ固定です。

注意

- 入力セレクトターでAD-20/AD-30を増設したポジションを選択した場合に、MC/MMの切り替えが有効となります。
- AD-20/AD-30のボード上にMC/MM切替用ディップ・スイッチがありますが、本体**17**MC/MM切替ボタンが優先し、ボード上の設定は無視されます。
- 「MC LOAD」とFILTER設定は、ボード上での設定となり、本体での切り替えはできません。(21ページ参照)
- 本機は「アナログ・ディスク入力ボードAD-9またはAD-10」も使用できますが、この場合のMC/MM切り替えはボード上での設定となり、本体のMC/MM切替機能は動作しません。

18 機能ディスプレイ部 (5ページ参照)

下記機能の動作状態をLED表示します。

- 2** OUTPUT:OFF/EXTPRE ON
- 3** TONE:ON
- 7** RECORDER:ON
- 7** RECORDER:PLAY
- 13** PHASE:INVERT
- 15** MONO
- 16** DAC INPUT(DAC-40装着時)
 - COAX
 - OPT
 - USB

17 MC/MM:MC(AD-20/AD-30装着時)

19 レベル/周波数ディスプレイ部

音量、デジタル入力のサンプリング周波数(DAC-40のみ)を数値表示

***4**: ディスプレイのON/OFFができます。

19 レベル/周波数ディスプレイ部 (5ページ参照)

20 ボリューム・ノブを回した時、その音量を数値(dB)で表示します。

工場出荷時における「表示モード」の初期設定は「アッテネーター・モード」です。

音量の数値(dB)表示

アッテネーター・モード(初期設定) (設定・変更は18ページ)

最小(MIN) ← ポリューム・ノブを回す → 最大(MAX)

-95.0 dB ↔ -0.1 dB 0.0 dB

ゲイン・モード

(設定・変更は18ページ)

最小(MIN) ← ポリューム・ノブを回す → 最大(MAX)

-83.0 dB ↔ -6.0 dB ↔ 12.0 dB

12dBポジションの場合

-77.0 dB ↔ 0.0 dB ↔ 18.0 dB

18dBポジションの場合

-71.0 dB ↔ 6.0 dB ↔ 24.0 dB

24dBポジションの場合

***6**ゲイン切替スイッチで表示が変わります。

メモ

- **4** DISPLAYボタンで表示OFFした場合、ボリュームを回すと、4秒間レベルを表示後、再び消灯します。
- バランス・ノブを回しても、表示の数値は変わりません。
- アッテネーター・モード時、アッテネーター・ボタンをON/OFFしても表示の数値は変わりません。
- リモート・コマンドーRC-220(+) (-) ボタンの操作時も同様に表示されます。

サンプリング周波数の表示例

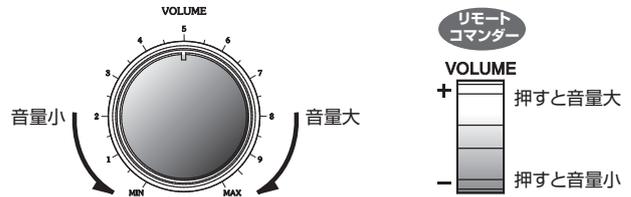
- オプション・スロットにDAC-40を装着し、入力セクターで選んで外部入力をロックインしたとき、サンプリング周波数(kHz)を4秒間表示します。
- 4** **DISPLAY** ボタンでサンプリング周波数(kHz)を選択すると常時表示されます。
- サンプリング周波数表示を選択中に**20** ボリューム操作をすると、音量の数値表示に切替り、4秒後にサンプリング周波数表示に戻ります。
- サンプリング周波数表示中に本機の電源を切ってもサンプリング周波数表示の設定は記憶します。



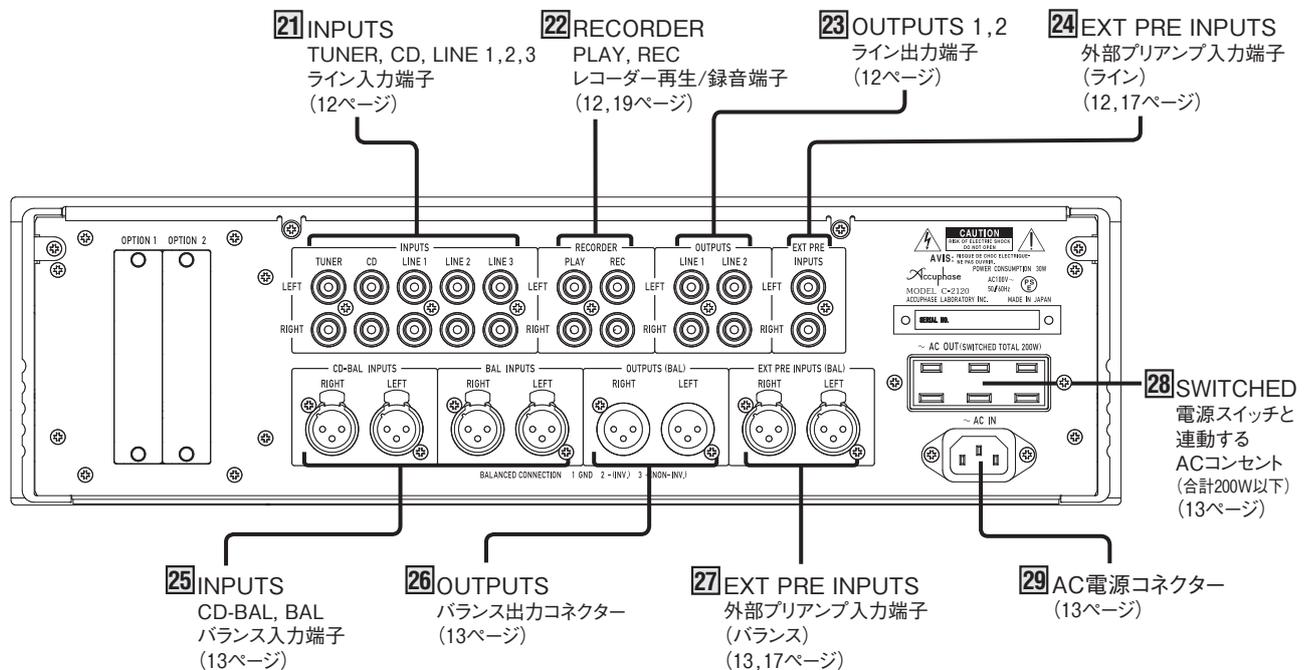
*DAC-10/DAC-20/DAC-30ではサンプリング周波数を表示されません。

20 VOLUME — ボリューム調整

右へ回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。その音量が数値(dB)でレベル・ディスプレイ部に表示されます。リモート・コマンダーRC-220でも同様に動作させることができます。



リアパネル(後面)



21 INPUTS TUNER、CD、LINE 1~3 — ライン入力端子

一般的なハイレベル入力端子です。

* 最大入力電圧は6Vです。

* LINE(ライン)とUNBALANCE(アンバランス)は同一です。本機では主にLINE(ライン)として表記しています。

注意

レコード・プレーヤーの出力を接続してアナログ・ディスクの演奏はできません。アナログ・ディスクの演奏にはオプションのAD-30が必要です。

アナログ・ディスクの演奏は21ページ参照。

レコード・プレーヤーの接続は14ページ参照。

22 RECORDER — レコーダー再生/録音

レコーダーを接続し、録音・再生が可能です。(詳細は19ページ参照)

23 OUTPUTS LINE 1, LINE 2 — ライン出力端子

通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルで、パワーアンプの入力端子と接続します。

24 EXT PRE INPUTS — 外部プリアンプ ライン入力端子

外部のプリアンプ出力を、ライン接続で入力します。(詳しい説明は17ページ参照)

- OUTPUTスイッチをEXT PREポジション、もしくは本機の電源を切ると、この端子の入力信号は**23**OUTPUTS(ライン出力端子)に出力されます。

***26**バランス出力コネクタに出力することはできません。

25 INPUTS CD BAL、BAL — バランス入力コネクター

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用入力コネクターです。CDプレーヤーやチューナーなどのバランス出力を持つ機器を接続してください。

ピンの極性は、



- ①: グラウンド
- ②: インバート(-)
- ③: ノン・インバート(+)

となっていますので、ソース側の機器との極性を合わせて接続してください。

* ソース側機器と極性が本機と逆の場合は **13** PHASEで合わせることができます。(10ページ参照)

* 最大入力電圧は6Vです。

* バランス用オーディオケーブルは当社で別売しています。(23ページ参照)

26 OUTPUTS BAL — バランス出力コネクター

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力コネクターです。パワーアンプが、バランス入力コネクターを装備している場合には、良質なオーディオ信号の伝送が可能です。

ピンの極性は、



- ①: グラウンド
- ②: インバート(-)
- ③: ノン・インバート(+)

となっていますので、パワーアンプ側の極性を確認して接続してください。

● 入力ソース側またはパワーアンプ側の極性が本機と逆の場合は、**13** PHASEボタンで合わせます。(10ページ参照)

● バランス用オーディオケーブルは当社で別売しています。(23ページ参照)

27 EXT PRE INPUTS — 外部プリアンプ入力端子(バランス)

外部のプリアンプ出力を、バランス接続で入力します。(詳しい説明は17ページ参照)

● OUTPUTスイッチを「EXT PRE」ポジション、もしくは電源を切ると、この端子の入力信号は **26** OUTPUTS(バランス出力端子)に出力されます。

※ **23** ライン出力端子に出力することはできません。

28 SWITCHED — 電源スイッチと連動するACコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源スイッチをON/OFFすることにより、他の機器の電源も同時にON/OFFすることができます。



注意

接続する機器の消費電力は200Wを超えないようにする。

29 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



警告

電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

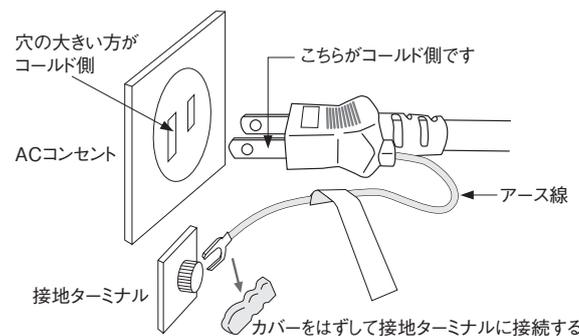
■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■入・出力端子や、AC電源コネクタ、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)



警告

アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

◆注意

- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。
- 本機のSWITCHEDコンセントは、下側がコールドです。

4. 接続図

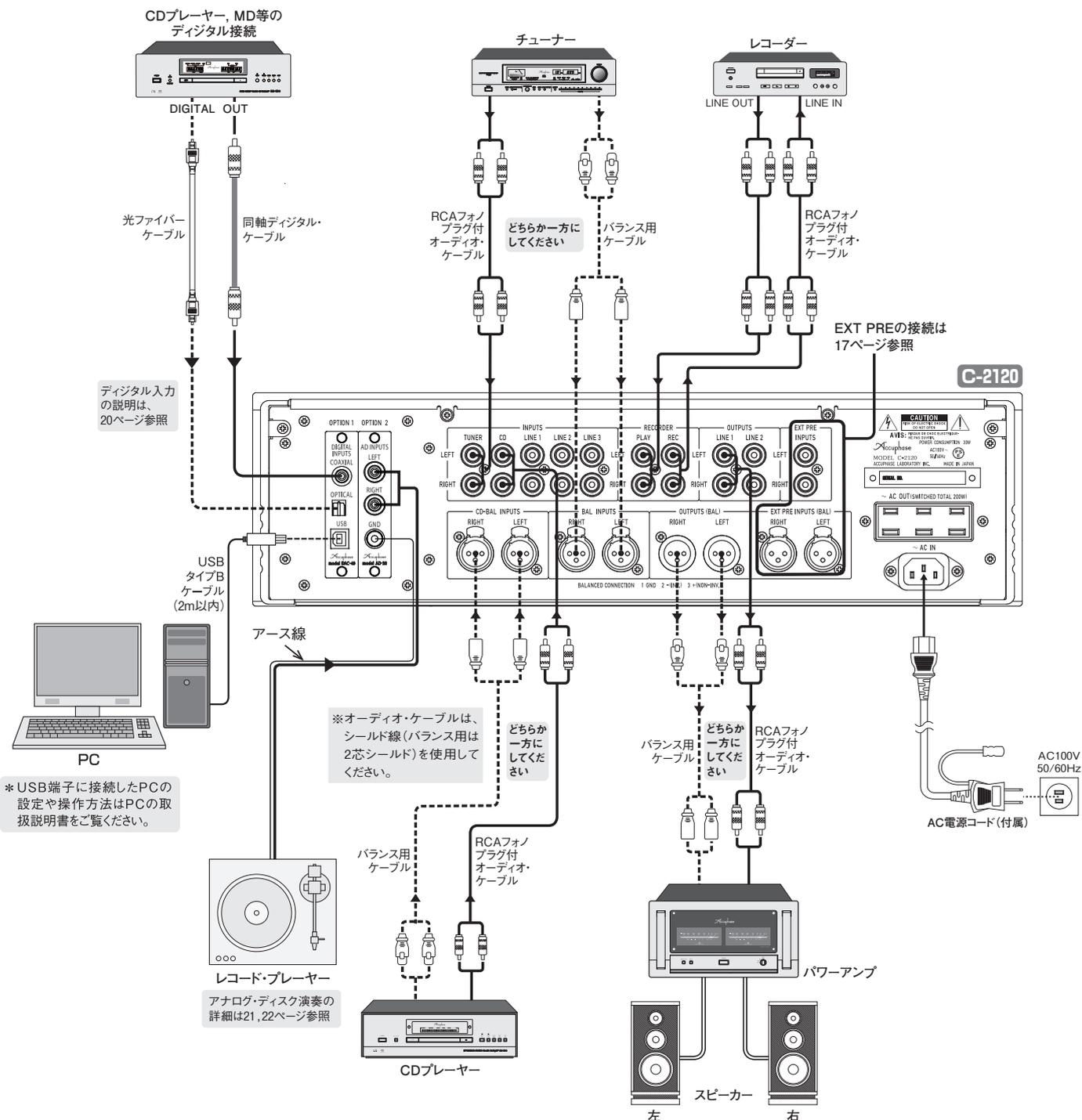
注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

注意

- アナログ出力の接続はオーディオケーブルを使用し、LEFT(左)、RIGHT(右)を正しく接続してください。
- 同一機種同士でバランス用とライン用ケーブルは同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

イラストはオプション(別売)を増設した場合の接続例

- OPTION 1：デジタル入力ボード [DAC-40]
- OPTION 2：アナログ・ディスク入力ボード [AD-30]



5. リモート・コントロール

リモート・コマンダー RC-220の取り扱い方

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-220を使うと、離れたところから次の機能をコントロールすることができます。

① INPUT SELECTOR – 入力セレクター

リアパネルの各入力端子に対応するプログラム・ソースを選択します。各ボタンを押すと、INPUT SELECTORノブの外周に、選択された入力ポジションのLEDが点灯します。

- オプションボード DAC-40の入力切替は11ページ参照。

② INPUT SELECTOR – 入力セレクター (+), (-)

INPUT SEL (+)はノブの右回り、(-)はノブの左回りで入力を選択することができます。

③ VOLUME – ボリューム調整

本体ボリュームと連動しており(+)ボタン側を押し続けると、ボリューム・ツマミが右に回転し音量が増大します。また、(-)ボタン側を押し続けていると左に回転し音量は減少します。

④ CD PLAYER – CDプレーヤーのコントロール

アキュフェーズのCDプレーヤーをコントロールすることができます。但し、SA-CD/CDトランスポート DP-100のコントロールはできません。

⑫と同じ

① INPUT SELECTOR 入力セレクター(9ページ)

「INPUT SELECTOR」(入力セレクター)は、リアパネルの各入力端子に対応するプログラム・ソースを選択します。各ボタンを押すと、「INPUT SELECTOR」ノブの外周に、選択された入力ポジションのLEDが点灯します。

② INPUT SEL

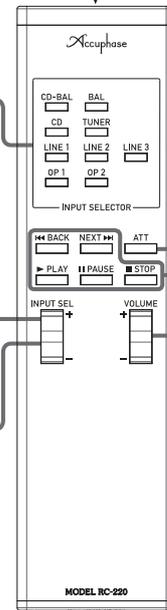
(+)

⑫入力セレクターノブの右回りと同じで入力ポジションを選択。

(-)

⑫入力セレクターノブの左回りと同じで入力ポジションを選択。

発光部
(本体の⑭リモート・センサーに向ける)



⑩ATT

アッテネーターON/OFF
ボタンと同じ

④ CD PLAYER

アキュフェーズのCD
プレーヤーをコントロール
することができます。
(DP-100は除く)

⑫と同じ

③ VOLUME

ボリューム調整

(+) 音量大

(-) 音量小

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の⑭リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

- 落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。
- 直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

乾電池について

■ 乾電池の交換時期

乾電池は普通に使って約8カ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。(長期間同じ乾電池を使用しますと液漏れの原因となりますので注意してください。)

使用する乾電池は、単3形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

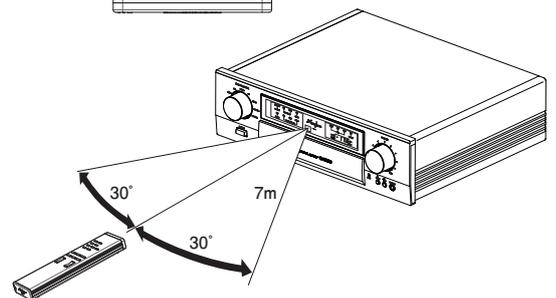
注意

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。

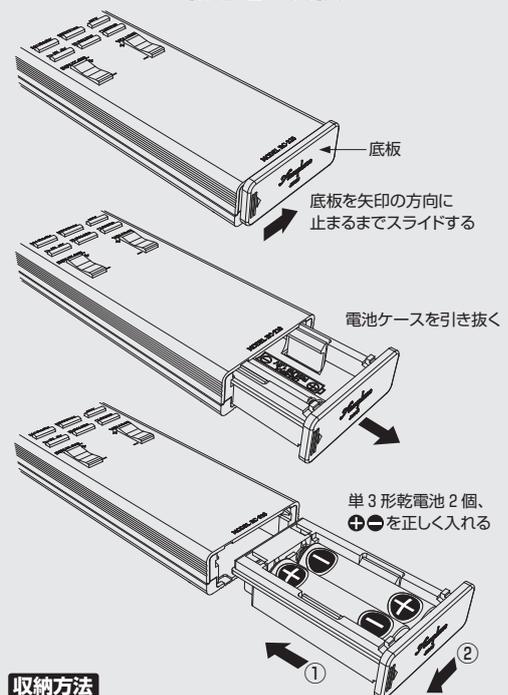
- 乾電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り(+)プラス、(-)マイナスを正しく合わせる。
- 新しい乾電池と、1度使用したものを混ぜない。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。
- 長時間にわたりコマンダーを使わないときは、乾電池を抜いておく。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

警告

- 乾電池は充電しない。乾電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。
- 電池ケースの電極部に金属類が触れないようにする。



乾電池の交換



収納方法

電池ケースをしっかり押し込んで①
底板を矢印方向にスライドして収納する②

接
続
図

リ
モ
ー
ト
・
コ
ン
ト
ロ
ー
ル

6. ご使用方法

⚠ 注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

使用される前にノブやスイッチ、ボタンの位置を確認します

- VOLUME : MIN(下げた状態)
- OUTPUT : ALL
- RECORDER : OFF(LED 消灯)
- MONO : OFF(LED 消灯)
- PHASE : 同相(LED 消灯)
- TONE、COMP、ATT : OFF(LED 消灯)
- BALANCE : センター

CDプレーヤーの演奏

※接続図は14ページ参照

CDプレーヤーのアナログ出力をリアパネルのCD入力端子(またはTUNER、LINE端子)へ接続します。また、CDプレーヤーがバランス出力を装備している場合は、バランス用“CD-BALまたはBAL INPUTS”端子をご使用ください。

演奏の手順

- ① VOLUMEが下がっていることを確認し、本機と共にCDプレーヤーやパワーアンプの電源を“ON”にします。
- ② 入力セレクターでCDポジション(または入力したポジション)を選択します。
- ③ CDプレーヤーを演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを調整して再生状態を確認してください。
- ④ MONOボタンをON(モノフォニック状態)にし、音像が中央に定位することを確認したり、コンペンセーターやアッテネーターなどの効き具合をお試しください。

チューナーで放送を聴く場合

※接続図は14ページ参照

チューナーの出力ケーブルをリアパネルのTUNER入力端子(またはCD、LINE端子)へ接続します。また、チューナーがバランス出力を装備している場合は、CD-BAL、BALなどバランス用“INPUTS”端子を使用することができます。

CD再生と同じ要領で入力セレクターを合わせ、他のスイッチ類のポジションを確認してください。チューナーが放送局に同調していれば、ボリュームを上げると放送が聴こえます。

メモ

C-2120の電源OFF時にタイマーでチューナーを録音する場合は、19ページを参照してください。

別システムのプリアンプやAVアンプでの演奏

別システムのプリアンプやAVアンプで演奏を楽しむ場合、その機器の出力をC-2120の『EXT PRE INPUTS』端子へ接続しておけば、パワーアンプへの接続を変えずに演奏機器を切り替えることができます。操作は、**2** OUTPUTスイッチを『EXT PRE』ポジションにします。

メモ：C-2120の電源をOFFにした場合は、OUTPUTスイッチのポジションに関係なく「EXT PRE」と同じ接続・動作になります。

注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

接続したプリアンプの音量が下がっていることを確認してEXT PREに切り替えてください。

入・出力の接続

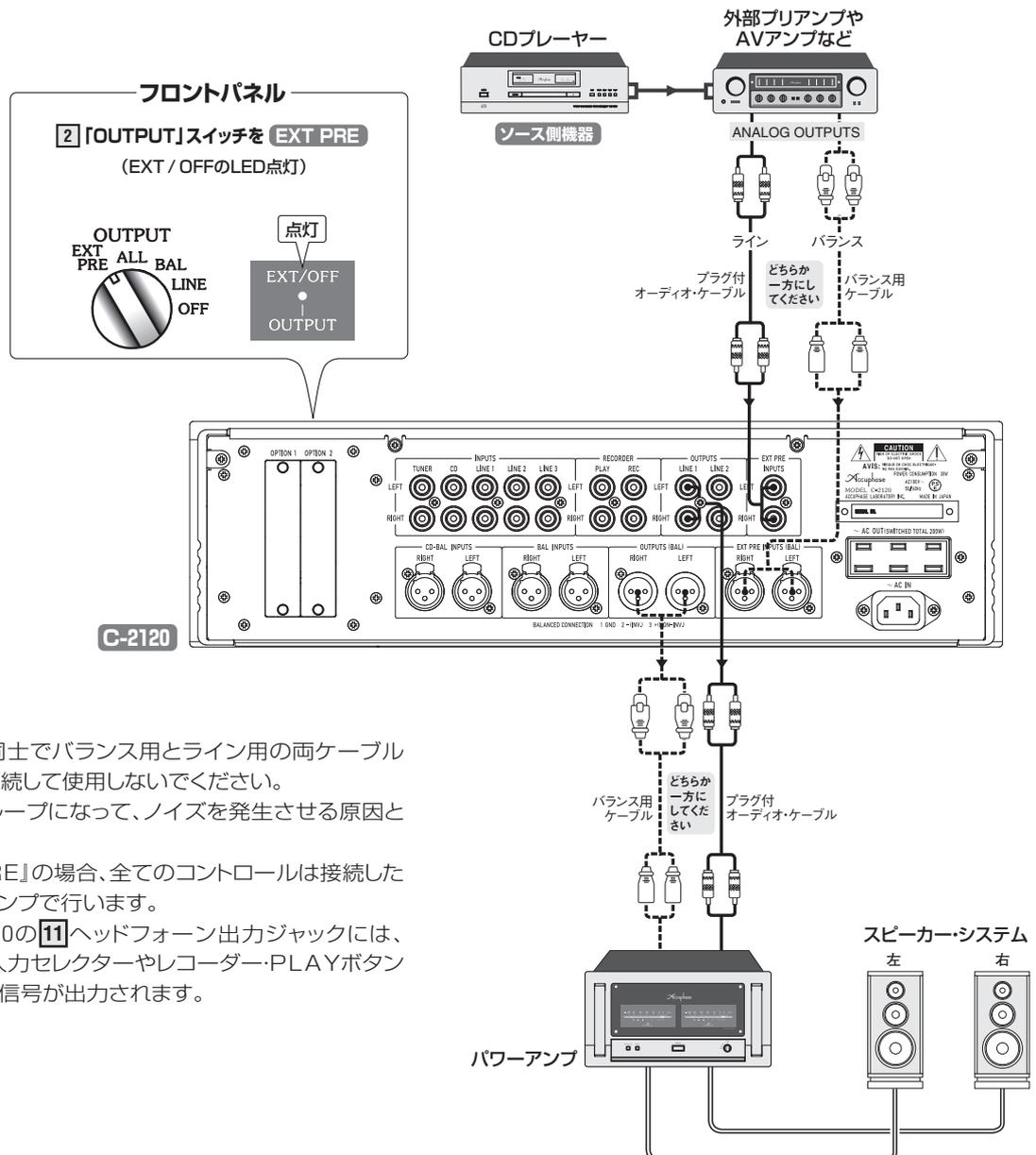
ライン接続の場合

24 『EXT PRE INPUTS』(LINE)に入力 ⇨ **23** OUTPUTS LINE1, LINE 2から出力

バランス接続の場合

27 『EXT PRE INPUTS』(BAL)に入力 ⇨ **26** OUTPUTS BALから出力

ライン、バランス相互の変換や極性を変えることはできません



- * 同一機器同士でバランス用とライン用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。
- * 『EXT PRE』の場合、全てのコントロールは接続した別のプリアンプで行います。但しC-2120の**11**ヘッドフォン出力ジャックには、C-2120の入力セレクターやレコーダー・PLAYボタンで選択した信号が出力されます。

ご使用方法

レベル/周波数ディスプレイ部の《表示モード》変更

19 レベル/周波数ディスプレイ部の《表示モード》は《アッテネーター・モード》と《ゲイン・モード》があります。《アッテネーター・モード》は、20 ボリューム・ノブを最大に回した状態(MAX)を基準(0dB)として、音量レベルを最小(MIN)まで表示します。(出荷時初期設定)この表示モードを変更して《ゲイン・モード》に設定することができます。

《ゲイン・モード》では、ボリューム・ノブの回転に応じた増幅度(ゲイン)を正確に表示します。

ボリューム・ノブを回した時の表示例

アッテネーター・モード(初期設定)

ボリュームMAX時を基準(0dB)として、減衰量(絞った量)を(dB値)で表示します。

最小(MIN) ← ボリューム・ノブを回す → 最大(MAX)

-95.0 dB ⇔ -0.1 dB ⇔ 0.0 dB

ゲイン・モード

※ 6 GAIN切替スイッチで表示が変わります。

ボリュームの回転に応じた入力から出力までの実際の増幅度(ゲイン)を表示します。

最小(MIN) ← ボリューム・ノブを回す → 最大(MAX)

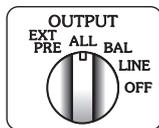
-83.0 dB ⇔ -6.0 dB ⇔ 12.0 dB 12dBポジションの場合

-77.0 dB ⇔ 0.0 dB ⇔ 18.0 dB 18dBポジションの場合

-71.0 dB ⇔ 6.0 dB ⇔ 24.0 dB 24dBポジションの場合

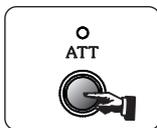
設定の変更方法

アッテネーター・モード(初期設定)から「ゲイン・モード」に設定変更



2 OUTPUTスイッチ

ALLポジションにする



10 ATTボタン

2秒以上押す

- 2 OUTPUT スイッチをALLポジションにする。
- 10 ATT ボタンを2秒以上押し続ける。

表示例 ※ 6 GAIN切替スイッチで表示が変わります。

最小(MIN) ← ボリューム・ノブを回す → 最大(MAX)

-83.0 dB ⇔ -6.0 dB ⇔ 12.0 dB 12dBポジションの場合

-77.0 dB ⇔ 0.0 dB ⇔ 18.0 dB 18dBポジションの場合

-71.0 dB ⇔ 6.0 dB ⇔ 24.0 dB 24dBポジションの場合

⇨ ディスプレイ部は「ゲイン・モード」に変更

*ボリュームMIN(絞り切った状態)では - dB表示が同じため各モードの違いはわかりません。

- メモ**
- 10 ATTボタンON時は、表示(数値)に-20dB加算表示されます。(11ページ参照)
 - ディスプレイOFF時は数値が4秒間表示されます。

「アッテネーター・モード」(初期設定)に戻す

- 2 OUTPUT スイッチをALLポジションにする。
- 10 ATT ボタンを2秒以上押し続ける。

表示例

最小(MIN) ← ボリューム・ノブを回す → 最大(MAX)

-95.0 dB ⇔ -0.1 dB ⇔ 0.0 dB

⇨ ディスプレイ部は「アッテネーター・モード」に変更

*ボリュームMIN(絞り切った状態)では - dB表示が同じため各モードの違いはわかりません。

レコーダーで録音・再生をする場合

接 続

※ 接続図は14ページ参照

リアパネルのRECORDER端子にレコーダーを接続します。

REC 端子 ⇔ レコーダーのLINE IN端子
 PLAY 端子 ⇔ レコーダーのLINE OUT端子

機 能

7 RECORDER : ON (録音)

- レコーダーを使用して録音をする場合、7 RECORDERスイッチをONポジションにすると録音可能となり、ディスプレイ部に“RECORDER ON”のLEDが点灯します。レコーダー録音用“REC”端子に信号が出力され、録音が可能になります。



7 RECORDER : PLAY (再生)

- レコーダーを使用して再生する場合、7 RECORDERスイッチをPLAYポジションにするとディスプレイ部に“RECORDER PLAY”のLEDが点灯します。“RECORDER ON”のLEDも点灯し、同時に録音も可能です。



操 作

再生：プレイバック

7 RECORDERスイッチをPLAYポジションにして、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

レコーダーを再生だけに使用する場合、RECORDER端子以外にLINEやCDなどの各入力端子を使うことができます。このときは入力セクターで選び、7 RECORDERスイッチは使用しません。

録音：レコーディング

レコーディングの操作手順

- 録音するプログラム・ソースを入力セクターで選択し、スピーカーから音を出して確認します。
- 7 RECORDERスイッチをONポジション(「ON」LED点灯)にします。入力セクターで選択した信号がREC端子から出力されます。
- レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。
- 本機のボリューム、アッテネーター、コンペンセーター、バランスは、録音される音には関係しませんので音量を下げて録音することができます。録音レベルは、レコーダー側で調整してください。
- RECORDERスイッチをPLAYポジションにすると、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます。(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。

電源 OFF時のチューナー録音

電源OFFの場合には、リアパネルのTUNER端子に接続されている信号が、RECORDERのREC端子に出力されます。入力セクターやRECORDERボタンなどに関係しませんので、チューナーなどをタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能になります。

注意

『電源OFF時』での録音中に、C-2120の電源を入れしないでください。
 録音中に電源を入れると、入力ポジションによっては録音が途切れてしまいます。録音中に電源を入れるときは十分注意してください。

7. オプション・ボード

C-2120には、デジタル入力ボードDAC-40、アナログ・ディスク入力ボードAD-30、ライン入力ボードLINE-10の3種類が用意されています。用途に応じて、リアパネルのオプション用スロットに増設してください。

- 注意**
- オプションを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切る。
 - デジタル入力ボードDAC-10/DAC-20/DAC-30、アナログ・ディスク入力ボードAD-9/AD-10/AD-20、ライン入力ボードLINE-9もC-2120に使用できます。ただし、AD-9/AD-10を使用する場合、C-2120の**17**MC/MM切り替えボタンは動作しません。MC/MMの切り替えはそれぞれのボード上で行います。(AD-9/AD-10の取扱説明書を参照してください。)
 - *DAC-10/DAC-20/DAC-30の場合**16**DAC入力切替およびサンプリング周波数の表示はできません。

オプション・ボードの使用方法

DAC-40 : CDなどをデジタル入力で演奏

*接続例は14ページ参照

オプションの、デジタル入力ボード: DAC-40を増設します。

- * CDプレーヤー、MDなどのデジタル出力の音楽信号を、同軸または光ファイバーで接続して演奏します。DAC-40はPC(パソコン)とUSBケーブルで接続して演奏が可能です。

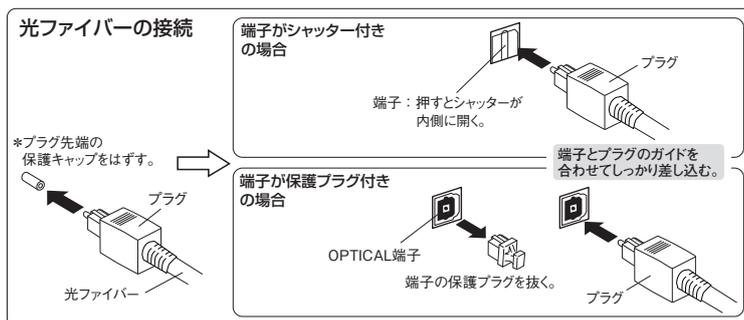
接続ケーブル

COAXIAL 端子

同軸デジタルケーブルで接続してください。

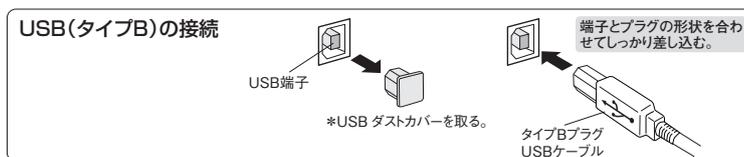
OPTICAL 端子

JEITA規格の光ファイバー接続用端子です。



USB 端子

USB(タイプB)ケーブル接続端子です。USB端子とPCを接続して使用する場合は付属のUSBユーティリティCDを付属のマニュアルに従ってPCにインストールしてください。



*外した保護キャップ、ダスタカバーは保管してください。

演奏の手順

- ① ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。入力セレクターで、DAC-40を増設したスロット(OPTION)を選択します。
- ② 入力機器を演奏状態にして、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを操作して再生状態を確認してください。

入力の選択方法 C-2120サブパネル内**16**DAC入力切替ボタンで選択します。(11ページ参照)



- 注意**
- 入力機器のCOAXIAL(同軸)出力端子とアナログ出力端子(バランス/ライン共)から、本機へ同時に入力しない。同一機種同士で同時に接続して使用すると、アースがループになって、ハムやノイズが発生する原因となります。
 - * USB端子に接続したPCの設定や操作方法はPCの取扱説明書をご覧ください。

AD-30 : アナログ・ディスク(AD)の演奏

*接続例は14ページ参照

- オプションの、アナログ・ディスク入力ボードAD-30を増設します。
- レコード・プレーヤーの出力ケーブルを入力端子へ正しく接続してください。プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出てくるアース線はGND(グラウンド)端子へ接続します。

注意

- オプション・ボードを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切る。
- AD-9/AD-10/AD-20を増設する場合、設定内容は同じですが、ディップ・スイッチの数や位置、また設定方法が異なりますので、必ずAD-9/AD-10/AD-20の取扱説明書を参照してください。
- また、AD-9/AD-10を増設した場合、本体の17MC/MM切替ボタンは動作しません。

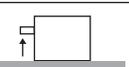
S1, S2, S3, S4 : ディップスイッチの設定 … 挿入前に設定します。

注意: スwitchの各キーは、先の細いもので完全にセットしてください。指定以外の設定では所定の特性を得られません。

ON キーを完全に押し下げる



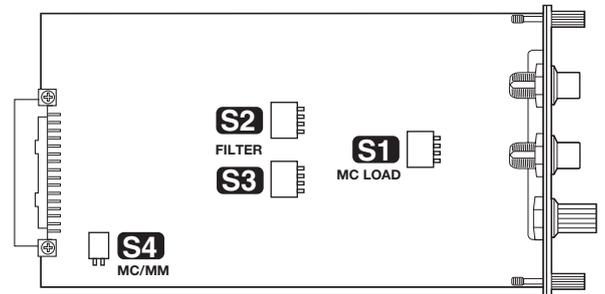
OFF キーを水平にする



スイッチを横から見た図を示しています。

- ① **S1 : MC LOAD**
MCの場合入力インピーダンスの選択 : 30/100/300Ω
- ② **S2, S3 : FILTER**
サブソニック・フィルターのON/OFF
- ③ **S4 : MC/MMの設定**

メモ C-2120は、パネル面17MC/MM切替ボタンの切り替えが優先されるため、ボード上のS4の設定は必要ありません。



AD-30 部品面 (S1~S4のスイッチ位置を示す。)

① S1 : MC LOAD—MCの入ラインピーダンスの選択…ボード上で設定

スイッチを正面から見た図を示しています。



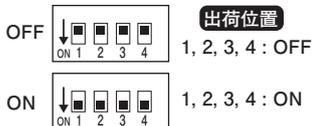
一般的には、MCカートリッジの内部インピーダンスが

- 20Ω以上 : 100Ωまたは300Ωに設定
- 20Ω以下 : 30Ωまたは100Ωに設定

- カートリッジの内部インピーダンスの2~3倍以上を目安にしますが、実際に試聴して良い音質の得られるインピーダンスを決定してください。
- S1は左右チャンネル同時に設定されます。

② S2, S3 : FILTER—サブソニック・フィルターのON/OFF…ボード上で設定

スイッチを正面から見た図を示しています。



このフィルターは、超低域25Hz以下を-12dB/octaveの減衰特性でカットし、超低域ノイズが可聴帯域内へ悪影響をおよぼすことを防ぎます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたりするときに大変有効です。

- S2, S3の両スイッチとも必ず同じ設定にしてください。

③ S4 : MC/MM—イコライザーゲインの切替…パネル面17MC/MMボタンの切り替えが優先

スイッチを正面から見た図を示しています。



MM : 高出力電圧のMM型カートリッジ

- ゲイン : 40dB
- 入力インピーダンス : 47kΩ

MC : 出力電圧が低いMC型カートリッジ

- ゲイン : 66dB
- 入力インピーダンス : S1で切り替え

- S4は左右チャンネル同時に設定されます。

メモ AD-30をC-2120に増設して使用する場合には、S4ディップ・スイッチの設定は必要ありません。

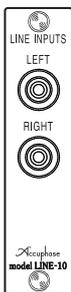
演奏の手順

- ① ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れ、入力セクターでOPTIONを選択します。
- ② レコード針をレコード面におろし、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを操作して再生状態を確認します。
- ③ レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動でスピーカーの振動板がゆれたりする場合は、サブソニック・フィルターをONIに設定すると、振動板のゆれを軽減することができます。
*サブソニック・フィルターはボード上で設定する必要があります。21ページ参照

オプション・ボードの種類

ライン入力ボード LINE-10

希望小売価格 8,000円 (税別)



本体のINPUTSと同じ、一般的なハイレベルのライン入力端子です。
CDプレーヤー、チューナーなどアナログ信号の入力端子として使用します。

*LINE-9も使用できますが、ピンジャックの形状と間隔などが異なります。

アナログ・ディスク入力ボード AD-30

希望小売価格 60,000円 (税別)



アナログ・レコードを再生します。高性能ハイゲイン・イコライザーを搭載していますから、いろいろな種類のカートリッジに対応することができます。

LEFT, RIGHT-アナログ・プレーヤー入力端子

この入力端子には、アナログディスク・プレーヤーの出力ケーブルを接続します。

GND-アース端子

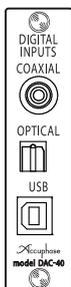
アナログ・プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出ているアース線を接続します。

MC : ゲイン 66dB、入力インピーダンス 30/100/300Ω

MM : ゲイン 40dB、入力インピーダンス 47kΩ

デジタル入力ボード DAC-40

希望小売価格 80,000円 (税別)



同軸、光ファイバー、USBの入力端子を装備しています。デジタル機器のデジタル音楽信号を入力することができます。

パソコンと接続して使用する場合は、付属のUSBユーティリティ(CD)をパソコンにインストールしてください。

接続ケーブル

- COAXIAL : 同軸デジタル・ケーブルで接続
- OPTICAL : 光ファイバーで接続
- USB : USBタイプBコネクタ付ケーブルで接続

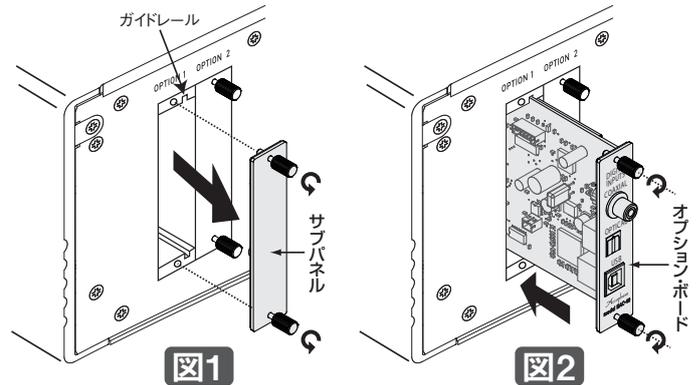
保証特性、適合規格

- 入力フォーマット : COAXIAL, OPTICAL IEC 60958/AES-3に準拠
USB USB2.0/ハイスピード(480M bps)準拠
- サンプリング周波数 : 32kHz~96kHz(OPTICAL), 32kHz~192kHz(COAXIAL, USB)
- 量子化ビット数 : 24bit
- デジタル入力 : COAXIAL 0.5Vp-p 75Ω
OPTICAL -27~-15dBm
USB

*USB端子に接続したPCの設定や操作方法はPCの取扱説明書をご覧ください。

オプション・ボードの取り付け方法

- 1 C-2120の電源を切ります。
- 2 リアパネルのオプション用スロットのサブパネルを外します。(図1参照)
※外したサブパネルは保管しておいてください。
- 3 オプション用スロットの上下のガイドレールに沿って、オプション・ボードを挿入(図2参照)します。コネクタに当たって止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。(パネル面が同一になればOKです。)
- 4 上下のネジ2カ所で確実に固定します。



*挿入のイラスト図は、DAC-40を示します。

注意

- オプション・ボードを抜き差しするときは、必ずC-2120の電源を切る。電源を入れたまま抜き差しすると、故障の原因となります。
- サブパネルを外したとき、スロット内部に手などを入れない。(スロット内部に、オプション・ボード以外は入れないでください。)
- 部品面やハンダ面、コネクタの接点部分を手で触らない。手で触ると接触不良や回路が故障する原因となることがあります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。
- オプション・ボードの取り付けネジは手で完全に締める。締めつけが不完全ですと、端子がグラウンドから浮いて接触不良となり、故障の原因となることがあります。

8. オーディオ・ケーブル(オプション)

オプションでアナログ用の「オーディオ・ケーブル」としてライン・ケーブル(フォノプラグ付)とバランス・ケーブル(XLRコネクタ付)を用意しています。

*各ケーブル、特注扱いで5m, 7.5m, 10mも用意しています。

■OFCシリーズ：無酸素銅(OFC)撚線

型番	ケーブル長	プラグ	希望小売価格
AL-10	1.0m(2本)	フォノプラグ	10,000円 (税別)
AL-15	1.5m(2本)	フォノプラグ	13,000円 (税別)
AL-30	3.0m(2本)	フォノプラグ	16,000円 (税別)
ALC-10	1.0m(2本)	XLRコネクタ	15,000円 (税別)
ALC-15	1.5m(2本)	XLRコネクタ	18,000円 (税別)
ALC-30	3.0m(2本)	XLRコネクタ	22,000円 (税別)

■SRシリーズ：高純度(7N)銅線などによる8芯マルチハイブリッド導体構造

型番	ケーブル長	プラグ	希望小売価格
ASL-10	1.0m(2本)	フォノプラグ	25,000円 (税別)
ASL-15	1.5m(2本)	フォノプラグ	35,000円 (税別)
ASL-30	3.0m(2本)	フォノプラグ	65,000円 (税別)
ASLC-10	1.0m(2本)	XLRコネクタ	35,000円 (税別)
ASLC-15	1.5m(2本)	XLRコネクタ	45,000円 (税別)
ASLC-30	3.0m(2本)	XLRコネクタ	75,000円 (税別)

9. 保証特性

*保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる。

★印の特性はアナログ・ディスク入力ボードAD-30装着時を示す。

周波数特性

BALANCED INPUT: [CD-BAL/BAL]

3 ~ 200,000Hz +0 -3.0dB

20 ~ 20,000Hz +0 -0.2dB

LINE INPUT: [CD/TUNER/LINE/RECORDER PLAY]

3 ~ 200,000Hz +0 -3.0dB

20 ~ 20,000Hz +0 -0.2dB

★AD INPUT: [MM/MC]

20 ~ 20,000Hz ±0.3dB

全高調波ひずみ率 (全ての入力端子にて)

0.005%

入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	0.5V 出力時	
BALANCED	252mV	63mV	40kΩ (20kΩ/20kΩ)
LINE	252mV	63mV	20kΩ
★AD:MM/40dB	2.5mV	0.63mV	47kΩ
★AD:MC/66dB	0.126mV	0.0315mV	30/100/300Ω 切替

定格出力・出力インピーダンス

BALANCED OUTPUT : 2V 50Ω
 LINE OUTPUT : 2V 50Ω
 ★RECORDER REC : 252mV 200Ω AD入力時

S/N・入力換算雑音 (ゲイン・スイッチ : 18dB時)

入力端子	入力ショート(A補正)		EIA S/N
	定格出力時S/N	入力換算雑音	
BALANCED	109dB	-121dBV	107dB
LINE	109dB	-121dBV	107dB
★AD:MM/40dB	80dB	-136dBV	86dB
★AD:MC/66dB	68dB	-152dBV	76dB

最大出力レベル (ひずみ率 0.005% 20~20,000Hz)

BALANCED OUTPUT : 7.0V
 LINE OUTPUT : 7.0V
 ★RECORDER REC : 6.0V AD入力時

LINE最大入力電圧

BALANCED INPUT : 6.0V
 LINE INPUT : 6.0V

最小負荷インピーダンス

BALANCED OUTPUT : 600Ω
 LINE OUTPUT : 600Ω
 RECORDER REC : 10kΩ

クロストーク : -74dB以上(10kHz)

★AD最大入力電圧 (1kHz, ひずみ率 0.005%)

MM/40dB INPUT : 60.0mV
 MC/66dB INPUT : 3.0mV

ゲイン (GAINスイッチ : 18dB時)

*GAINスイッチ12dB時では、下記の値に全て-6dB加算。

*GAINスイッチ24dB時では、下記の値に全て+6dB加算。

BALANCED INPUT → BALANCED OUTPUT : 18dB
 BALANCED INPUT → LINE OUTPUT : 18dB
 LINE INPUT → BALANCED OUTPUT : 18dB
 LINE INPUT → LINE OUTPUT : 18dB
 ★AD[MM : 40dB] INPUT → BALANCED OUTPUT : 58dB
 ★AD[MM : 40dB] INPUT → LINE OUTPUT : 58dB
 ★AD[MM : 40dB] INPUT → REC OUTPUT : 40dB
 ★AD[MC : 66dB] INPUT → BALANCED OUTPUT : 84dB
 ★AD[MC : 66dB] INPUT → LINE OUTPUT : 84dB
 ★AD[MC : 66dB] INPUT → REC OUTPUT : 66dB

トーン・コントロール

低音/高音部それぞれの周波数切替および可変範囲

低音 (BASS) : 40/100Hz切替 ±10dB

高音 (TREBLE) : 8k/20kHz切替 ±10dB

コンベンセーター

+6dB(100Hz)

★サブソニック・フィルター 10Hz -18dB/octave

アッテネーター -20dB

ヘッドフォン端子 適合インピーダンス 8Ω以上

*9ページ参照

出力レベル 2V(40Ω)

電源 AC100V 50/60Hz

消費電力 30W

最大外形寸法

幅465mm × 高さ150mm × 奥行405mm

質量 16.8kg

付属リモート・コマンダー RC-220

リモコン方式 : 赤外線パルス方式

電源 : DC3V・乾電池 単3形2個使用

最大外形寸法 : 50mm×192.5mm×20.5mm

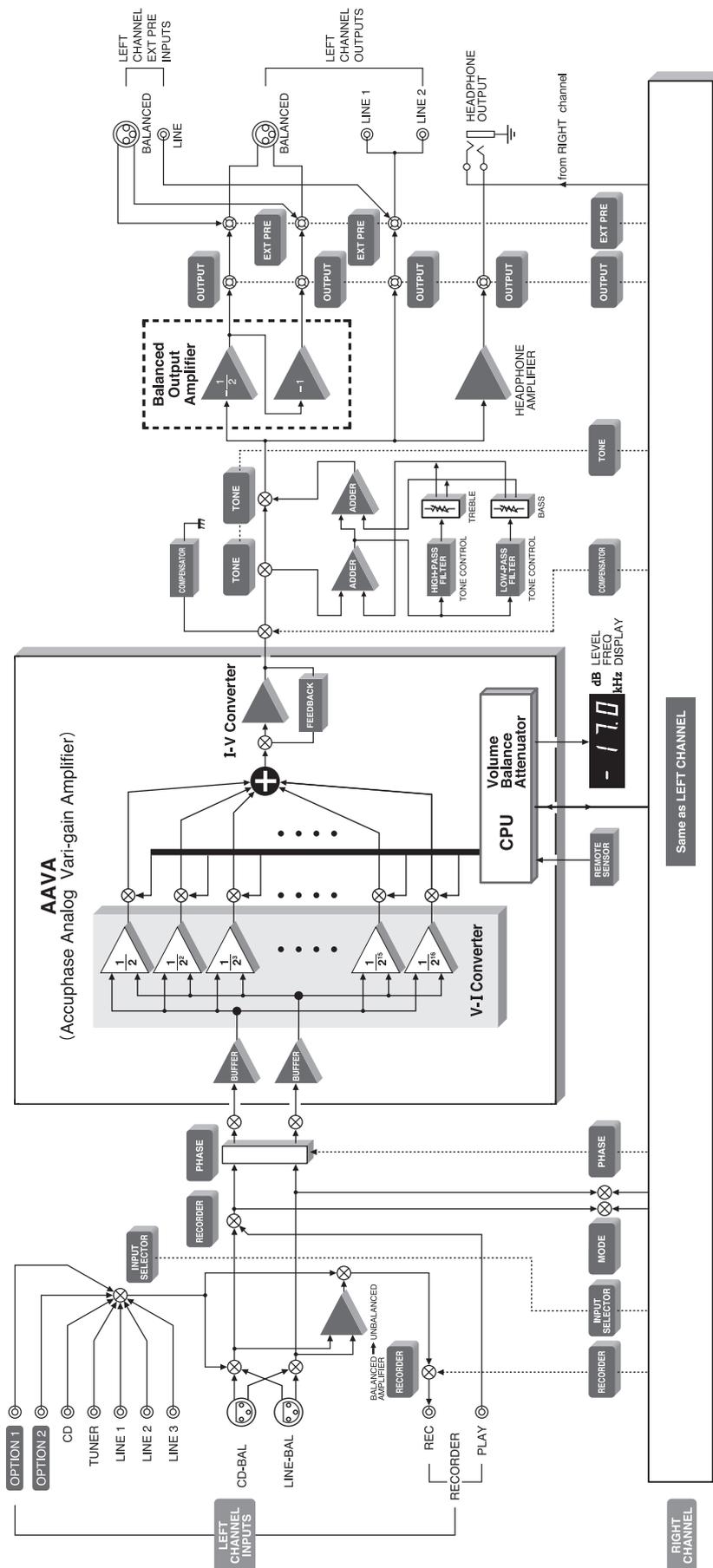
質量 : 215g(電池含む)

●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部：限度値—高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

*本機の仕様・特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

10. ブロック・ダイアグラム



保証特性
ブロック・ダイアグラム

11. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

! **注意** : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない

- 電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側を確認します。)

音がでない、音が小さい

- ソース側機器やパワーアンプの電源は入っていますか。
- 接続コードは正しく接続されていますか。
- 入力や出力切替スイッチの位置を確認してください。
- ATTがONになっていませんか(9ページ)
- OUTPUTがEXT PREになっていませんか。(6ページ)

片側のスピーカーから音が出ない

- 接続コード、スピーカーコードは正しく接続されていますか。
- ソース側機器や本機のスイッチ類は正しい位置ですか。
(バランスの位置など)
- 本機とパワーアンプ間の接続コードを左右入れ替えてください。
 - ┌ 同じ側から音がでない …… パワーアンプやスピーカー側に原因が考えられます。
 - └ 左右逆の状態になる …… 本機やソース側機器に原因が考えられます。
- 次に本機への入力接続コードを左右入れ替えてください。
 - ┌ 同じ側から音がでない …… 本機に原因が考えられます。
 - └ 左右逆の状態になる …… 接続コードやソース側機器に原因が考えられます。

ボリュームを回すと、 スピーカーからノイズが出る

- 高能率スピーカーをご使用の場合、ボリュームを回転するときやバランス調整を行うときに、『電流スイッチの切替動作音』が聞こえる場合があります。この動作音は異常ではありません。(3ページ参照)
また「切替動作音」が気になる場合は、**6**ゲイン切替スイッチ(8ページ参照)を12dBポジションで使用すると有効です。

リモート・コマンダーで操作できない

- 電池は入っていますか。
- 電池の極性は**+**(プラス)と**-**(マイナス)が正しく合っていますか。
- 新しい電池に交換してみましょう。
- 受光部付近に障害物はありませんか。
- テレビやインバータ照明等の近くに設置していませんか。お互いに離すか、置く向きを変えてみます。
- 電池ケースの接点は汚れていませんか。

表示が消える

- DISPLAYがOFFに設定されていませんか。(7ページ)

12. アフターサービスについて

保証書について

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を**当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から5年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となります**ので、『お客様カード』は必ずご返送ください。
- 『お客様カード』をご返送いただく時、**ご購入日等を記入して頂きます**が、下記の場合には登録(『品質保証書』の発行が)できないことがあります。
 - *ご記入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
 - *『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
 - *長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

注意 保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川12-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX 045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理のお問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/>

修理を依頼する場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況：できるだけ詳しく

* 梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。

enrich life through technology



ACCUPHASE LABORATORY, INC.
アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2-14-10
〒225-8508 TEL (045)901-2771(代)
<http://www.accuphase.co.jp/>